

四季の和白干潟の自然Ⅱ (雁ノ巣海岸)

博多湾・和白干潟は東アジアの渡り鳥の渡来地として重要なところ。和白干潟は自然海岸のある干潟として、2009年に「にほんの里100選」に選ばれています。和白干潟の雁ノ巣海岸では砂嘴(さし)が発達しており、海の広場周辺とはまた違う植物が見られます。外来種の植物も入ってきています。雁ノ巣海岸からは立花山が見え、美しい景観です。和白干潟を守る会では、雁ノ巣海岸の四季の自然の変化を調べようと2016年4月より1年間「四季の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)」を実施し、記録をもとに「四季の和白干潟の自然Ⅱ」リーフレットを作成しました。これを見ながら、雁ノ巣海岸を散策してみましょう!



カンムリカイツブリ 準



クロツラヘラサギ I B I B



ハジロカイツブリ



ツクシガモ II 準



ホオジロガモ(♂) II



スズガモ(♂)



ウミアイサ(♂)



ミヤコドリ II



ハジロコチドリ



シロチドリ II 準



ハマシギ 準準



ミュビシギ 準

冬 越冬する水鳥が多い季節です。カモ類、シギ・チドリ類、カイツブリ類などがたくさん越冬します。アシ原や林の植物は葉が赤く色づいたり、穂が出たり、花が綿毛になったりしています。枯れた植物も多くあります。林にもツグミなどの冬鳥の小鳥たちが訪れています。小鳥たちは木や草の実を食べて、フンと共に種を落とします。干潟に小鳥が来て海草の下の虫を食べたりすることもあります。干潟では岩についたマガキを探る人も見られます。北西風が吹き付けて波が荒くなり、その波の跡(砂紋)が引いた干潟に残り、美しい景色が見られます。



ツグミ



マガキ



ナンキンハゼ(紅葉)



センダン(実)



ツルウメモドキ(実)



アシ(ヨシ)(穂)



砂紋



砂嘴(さし)風景

和白干潟を守る会 〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37 <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>
 代表: 山本 廣子 TEL/FAX: 092-606-0012 e-mail: cqt33ptm9@wing.ocn.ne.jp
 年会費: 個人 2,000円/団体 5,000円 郵便振替: 01720-4-23860 和白干潟を守る会
 発行者: 和白干潟を守る会 発行日: 2017年7月 印刷: ロータリー印刷株式会社
 ©このリーフレットは(公財)イオン環境財団の助成を受けて作成しました。



コサギ



アオサギ



オハシギ



トウネン



キアシシギ



オオソリハシギ II 準



ホウロクシギ II II



ソリハシギ

春 砂嘴にはカワラヨモギの大群落があり、美しい新芽が出そろっています。干潟には南からの渡り鳥が羽を休めます。潮干狩りの季節、たくさんの方がアサリなどを掘っています。



アサリ



ウミニナ 準準 ホソウミニナ



ハマダイコン(花)



ハマエンドウ(花)



ハマヒルガオ(花)



カワラヨモギ(新芽)



ハマニンニク(穂) II



ナルトサワギク(花) 特外



トベラ(花)



センダン(花)



クロマツ(新芽)



オゴノリ(海藻)

絶滅危惧 I A: 絶滅の危険性が極めて高い種 絶滅危惧 I B: I A 類ほどではないが、絶滅の危険性が高い種
 絶滅危惧 II: 絶滅の危険が増大している種 準絶滅危惧: 現時点では絶滅危険度は小さいが生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種(名称の横に、国の指定→赤字、福岡県指定→青字で表示しています)
 「特定外来生物」に指定されている植物(特外と表示): 「輸入・飼育、栽培、運搬・野外に放つこと」が禁止とされています。